

津軽半島における地域活性化に関する調査研究

奥津軽駅(仮称)周辺エリアの観光資源

2012年2月

財団法人 東北活性化研究センター

目 次

1. 今別町の観光資源(総合)	3
2. 外ヶ浜町・平舘エリアの観光資源(総合)	9
3. 外ヶ浜町・三厩エリアの観光資源(総合)	12
4. 中泊町・小泊エリアの観光資源(総合)	18
5. 食鮮・奥津軽のプレミアムグルメ	24
6. 津軽半島北部地域の山	35
7. 津軽半島北部地域の巨樹・古木	37
参考資料等一覧	39

1. 今別町の観光資源(総合) 位置図



(注)イベントは地図に
掲載していません

1. 今別町の観光資源(総合)

通番	観光資源名	分類	概要	写真・図	季節・備考
1	ほろづきかいがんだかのざき 津軽国定公園 褒月海岸高野崎	景観	北海道、龍飛崎、下北半島を一望。高野崎先端を下っていくと岩場と岩場をつなぐ潮騒橋と渚橋がある		キャンプ場は6～9月、フリーテントサイト100張、駐車場150台 設備: 洗い場/温水コインシャワー/水洗トイレ/照明
		自然体験	シーサイドキャンプ、磯遊び、釣り		
		販売施設	「眺望いさりび」(食堂、土産)の店頭で焼きイカなど		
2	高木恭造文学碑	歴史文化	津軽方言詩人・高木恭造の文学碑。高野崎キャンプ場内に設置されている		写真提供: 今別町
3	いがまざき 鑄釜崎キャンプ場	景観	ほろづき 褒月海岸に面した緑の芝生が美しいキャンプ場。海水浴や、磯遊び、釣りの絶好のスポット。「鬼の形のトイレ」が目印。キャンプ場は断崖の上にあるが、このあたり一帯の磯の景観が素晴らしい		キャンプ場は6～9月、フリーテントサイト約80張、設備: 洗い場/水洗トイレ/照明
		自然体験			
4	海峡の家「ほろづき」	宿泊	高野崎から歩いて5分ほどの小高い丘にある。廃校になった中学校の校舎を宿泊施設として活用しており、木造校舎の温もりが今も残る。自炊宿泊。体験学習やレクリエーション向き		4～10月開館、定員42名
5	眺海の森林ウッドパーク	宿泊	ケビンハウス。奥津軽駅(仮称)から近い場所		ケビンハウス(7棟)設備: 風呂/トイレ/テレビ/冷蔵庫/炊飯器/食器/調理器具、フリーテントサイト約30張(冬季休業)
		自然体験	針葉樹の林間キャンプ場、森林浴、パターゴルフ、アスレチック、展望台、スキー場、海にも近い		
				写真提供: 今別町	

1. 今別町の観光資源(総合)

通番	観光資源名	分類	概要	写真・図	季節・備考
6	道の駅いまべつ半島プラザ「アスクール」	販売施設	津軽海峡線「津軽今別駅」と津軽線「津軽二股駅」の駅前に立地。地場産品土産物の販売や観光情報、釣り情報を提供	 <p>写真提供:今別町</p>	
		グルメ	飲食コーナーで、もずくうどんなど		
7	岩屋観音	寺社	天然の岩の中に埋もれるような社。津軽33観音の21番札掛け所	 <p>写真提供:今別町</p>	
8	だるま滝	景観	鬼泊トンネルから奥平部地区に行く途中にあり、だるまのような形をしている滝	 <p>写真提供:今別町</p>	
9	赤根沢の赤岩	景観	砂ヶ森地区の赤根沢は、朱色の岩塊が露出しており、付近は赤土で藩政時代には顔料として採掘され、領内の神社仏閣の赤い塗料、日光東照宮や岩木山神社の大堂、山門などの修復に用いられた。一帯30アールが青森県天然記念物に指定	 <p>写真提供:今別町</p>	
10	ほろつき 褒月海雲洞釈迦堂	寺社	ほろつき 褒月の川岸のお堂。釈迦如来像と聖観音を安置。岩屋観音と同じく津軽33観音の21番札掛け所	 <p>写真提供:今別町</p>	

1. 今別町の観光資源(総合)

通番	観光資源名	分類	概要	写真・図	季節・備考
11	松陰くぐり	景観 歴史文化	ほろつき 褒月海岸の波打ちぎわにある洞門。かつて松前街道の難所で1852年(嘉永5年)に吉田松陰が海峡警備の検分に平館台場へ向かう途中、通ったことから、この名前と呼ばれる	 写真提供: 今別町	
12	今別八幡宮	寺社	丘陵の突端に建立され、前に今別川があり、後には中沢があって敵を防ぐには屈強な場所であった	 写真提供: 今別町	
13	始覚山「本覚寺」 大仏と青銅塔婆	寺社	始覚山「本覚寺」は1651年(慶安4年)良信安長により開かれた浄土宗の名刹で、小説「津軽」にも登場する。青銅塔婆は、1727年(享保12年)に貞伝上人により建立され、青森県重要文化財。本覚寺には大仏もある	 写真提供: アプティネット	
14	高德山「正行寺」	寺社	海沿いにある正行寺。真宗大谷派に属し、1683年(天保3年)に釈浄閑律師によって開基	 写真提供: 今別町	
15	荒馬の里資料館	展示館	廃校となった小学校の体育館を活用した、青森県無形文化財「大川平荒馬」の資料館	 写真提供: 今別町	毎週日曜日開館

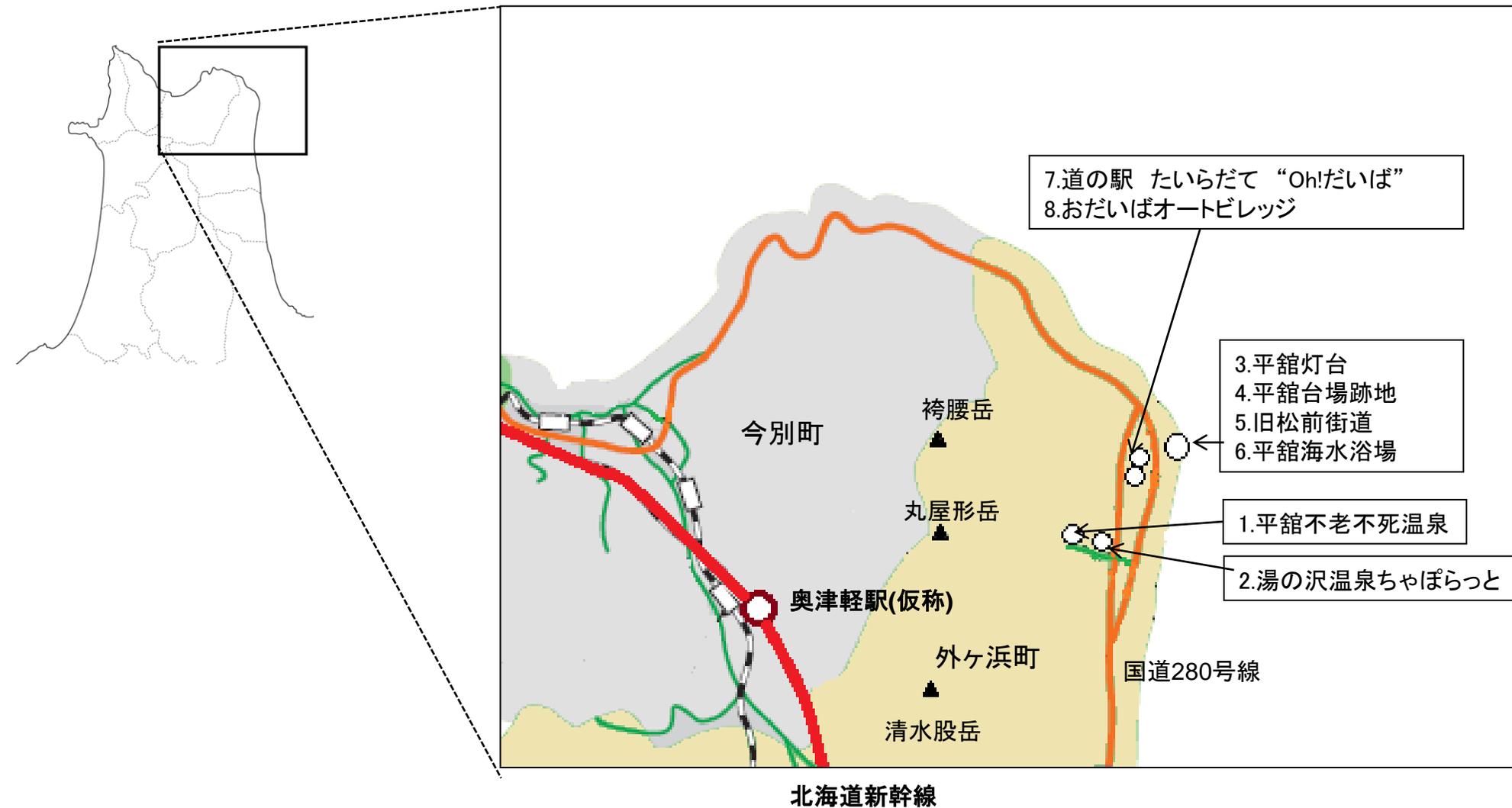
1. 今別町の観光資源(総合)

通番	観光資源名	分類	概要	写真・図	季節・備考
16	海産物直売センター「もじょく」	販売施設	今別町漁協の直売センター。漁港にあり、新鮮な魚介類を加工、販売している。イシモズクの若い藻を新鮮なうちにパック詰し、瞬間冷凍した「エメラルドモズク」が人気商品	 <p>写真提供: 今別町</p>	
17	青函トンネル入り口広場	歴史文化	青函トンネルの本州側入口。ここから全長53.85kmの世界最長の海底トンネルで北海道と結ばれている。トンネル入口上部の題字「青函隧道」は中曽根首相(当時)によるもの	 <p>写真提供: アプティネット</p>	
18	ヒバ木工所・あらま木工	販売施設	今別町の特産品ヒバ材を使った木工品を加工、販売。天然の風合いを生かし、時間をかけた製品が特長	 <p>写真提供: 今別町</p>	
19	海峡いまべつ春祭り	イベント	本州最後の桜祭り。郷土芸能「荒馬」など。地場産品加工品の販売もある	 <p>写真提供: 今別町</p>	実施時期: 5月上旬、主会場は今別漁港内の「海峡さざなみ公園」
20	荒馬まつり	イベント	子供会、町内会による今別町の郷土芸能「荒馬踊り」。扇ねぶたの山車とねぶたの衣装を身にまとったハネトが「荒馬」を囲み、ラッセラーの掛け声とともに、太鼓や笛の囃子に合わせて町を練り歩く。初日の花火は鑄釜崎展望台からの眺めがおすすめ	 <p>写真提供: 今別町</p>	8月4～7日、主会場は今別漁港内の「海峡さざなみ公園」

1. 今別町の観光資源(総合)

通番	観光資源名	分類	概要	写真・図	季節・備考
21	今別川	自然体験 景観	津軽海峡に流れる今別川は、太公望が賑わうスポット。アユ、ウグイ、イワナ、四季折々に楽しめる	 写真提供:今別町	

2. 外ヶ浜町・平館エリアの観光資源(総合) 位置図



(注)イベントは地図に
掲載していません

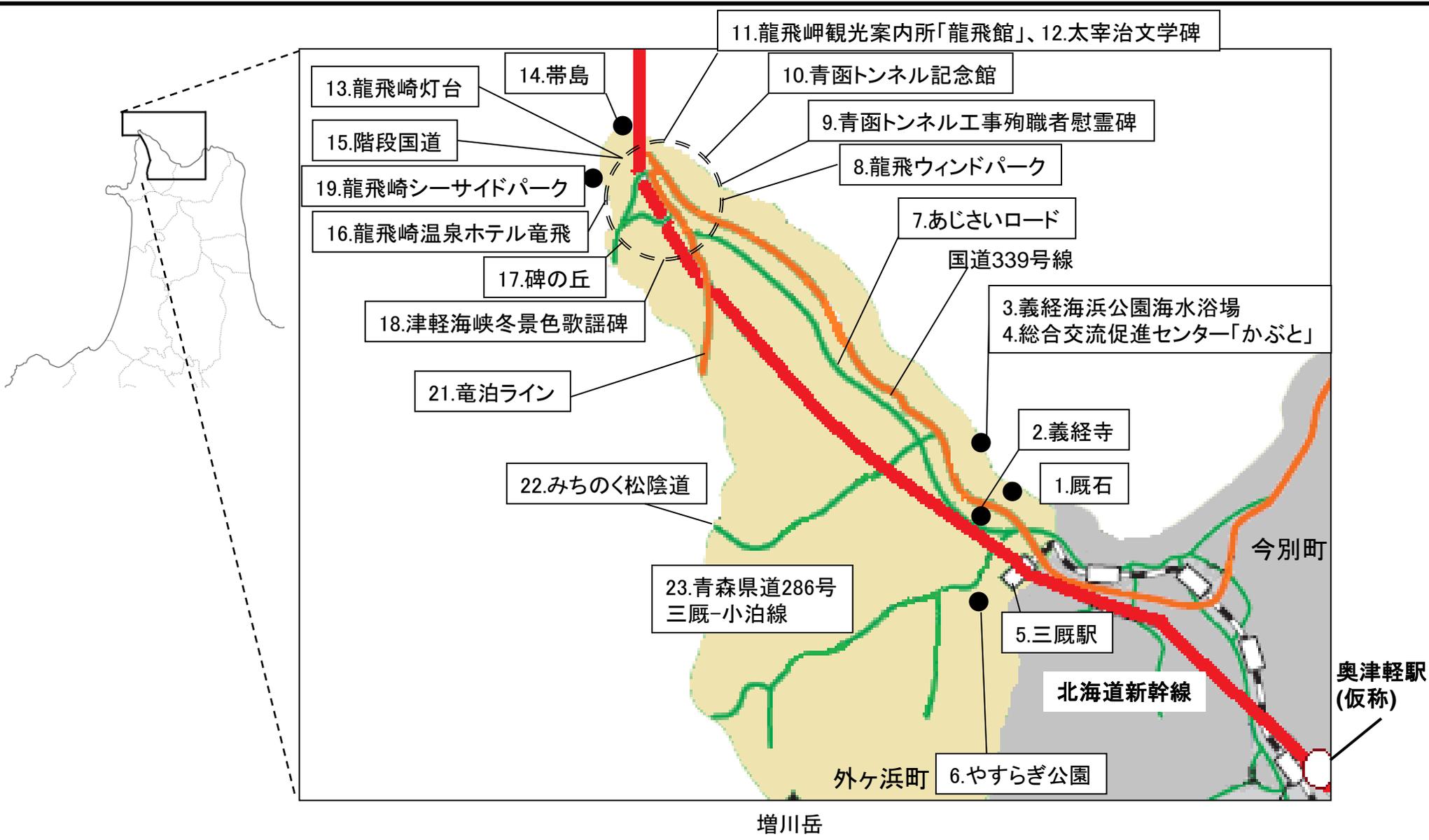
2. 外ヶ浜町・平館エリアの観光資源（総合）

通番	観光資源名	分類	概要	写真・図	季節・備考
1	平館不老不死温泉	宿泊	客室8室	 <p>写真提供: アプティネット</p>	
		温泉	泉質は塩素系イオンの少ない硫酸塩泉。無色透明で40度の少しぬるめの温泉。効能は主に皮膚病、神経痛によいとされる。日帰り入浴大人500円		
2	湯の沢温泉「ちゃぼらっと」	温泉	宿泊なし、大人350円の日帰り温泉。泉質はナトリウム塩化物泉で、少し熱め。神経痛や筋肉痛、冷え性などに良いとされる	 <p>写真: 青森地域社会研究所</p>	雁風呂伝説
3	平館灯台	景観	白亜の灯台・平館灯台は全国的にも珍しい“国道沿いの”灯台。台場跡地、旧松前街道などと一体となった景勝地	 <p>写真: 青森地域社会研究所</p>	
4	平館台場跡地	歴史文化	1848年、異国船の出没に対し、弘前藩が沿岸防備のために築いた西洋式砲台の台場跡。海側の土塁に松を植え、砲台が海から見えないように工夫するなど、幕末の台場がそのまま残っている例は全国的にも珍しい。1852年3月7日、吉田松陰は国防視察のためにこの台場を訪れ、「東北遊日記」に周囲の様子を記載した	 <p>写真: 青森地域社会研究所</p>	
5	旧松前街道	歴史文化	津軽国定公園の玄関口でもあるが、江戸時代に松前藩が参勤交代の道として利用。道の両側には樹齢300年を超える松並木が約1kmにわたり続いている	 <p>写真提供: アプティネット</p>	
		景観			

2. 外ヶ浜町・平館エリアの観光コンテンツ(総合)

通番	観光資源名	分類	概要	写真・図	季節・備考
6	平館海水浴場	自然体験	国道280号沿いの遠浅で透明度の高い海水浴場。波が穏やかで水質がよい。対岸には下北半島の山々が見られ、平館海峡を航行する船舶が行き交う。おだいばオートビレッジのすぐそば	 写真: 青森地域社会研究所	
7	道の駅 たいらだて “Oh! だいば”	観光施設	道の駅は8「おだいばオートビレッジ」のセンターハウスを兼ねる。「そば打ち体験館」(中山間活性化施設)併設	 写真提供: 外ヶ浜町	
8	おだいばオートビレッジ	自然体験	寝具・食器のそろったコテージ6名用10棟、オートキャンプ場20区画	 写真提供: アプティネット	サニタリーハウス内には炊事棟・水洗トイレ・コインシャワー完備、24時間利用可、売店・休憩室・研修室あり
		宿泊			
9	Oh! だいば・うにの日	イベント	おだいばオートビレッジを会場に開催。イワン焼干をはじめとする地元水産加工品や、農産物販売	 写真提供: アプティネット	実施時期7月上旬
		グルメ	殻付生ムラサキウニ1kgを2,000円で販売。イカの炭焼きなどもあり		

3. 外ヶ浜町・三厩エリアの観光資源(総合) 位置図



(注)イベントは地図に掲載していません

3. 外ヶ浜町・三厩エリアの観光資源(総合)

通番	観光資源名	分類	概要	写真・図	季節・備考
1	まやいし 厩石	歴史文化	源義経は奥州平泉で自刃したとされるが、実は逃げ延びて三厩から北海道へ渡ったという伝説がある(義経北行伝説)。その際、荒れ狂う津軽海峡に向かい、3日3晩祈祷したとされる岩が厩石。三厩の地名発祥の地でもある		
		景観		写真提供: アプティネット	
2	龍馬山「義経寺」 ぎけいじ	歴史文化	義経が岩の上に残したとされる観音像は、1667年(寛文7年)、諸国行脚の僧円空により発見された。円空は流木で仏像を彫り、そのなかに観音像を納め、小さなお堂を建てた。そのお堂が龍馬山「義経寺」となった。円空仏は県重要文化財。浄土宗津軽33観音霊場第19番札所でもある		
				写真提供: アプティネット	
3	義経海浜公園海水浴場	自然体験	キャンプ場、海水浴場		キャンプ4~10月、海水浴7~8月
				写真提供: 外ヶ浜町	
4	総合交流促進センター「かぶと」	展示館	義経海浜公園のセンターハウス。漁業資料展示コーナーあり		通年営業
		グルメ	若生おにぎり(柔らかい若い昆布を海苔の代わりに使って包んだおにぎり)など		
5	三厩駅	景観	JR東日本津軽線の終着駅。「かつては青函トンネル建設基地として、たくさんの人々が訪れたが、現在は、旅情豊かな風と潮の町の静寂な駅」として、2002年東北の駅100選に選定された		

3. 外ヶ浜町・三厩エリアの観光資源(総合)

通番	観光資源名	分類	概要	写真・図	季節・備考
6	やすらぎ公園	自然体験	県道286号線(増泊林道)沿いの公園。広い敷地に、巨大ローラー滑り台やキャンプ場がある。近くには、きれいな増川も流れ、自然を満喫できる	 <p>写真提供: 外ヶ浜町</p>	
7	あじさいロード	景観	県道281号三厩停車場竜飛崎線。道路の両側に約1万5千本の紫陽花が植えられている。途中にある東風泊(やませどまり)パーキング(やすらぎの駐車帯)からの津軽海峡の景観も素晴らしい	 <p>写真提供: 外ヶ浜町</p>	
		歴史文化	もとは青函トンネル工事の資材を運ぶために作られた道路		
8	龍飛ウインドパーク	景観	龍飛は日本有数の強風地帯。11基の巨大な風車が羽を回す姿は壮観で、3,000軒分の電力を賄い、国内最大級の規模を誇る	 <p>写真提供: 外ヶ浜町</p>	
9	青函トンネル工事殉職者慰霊碑	歴史文化	青函トンネル工事で殉職した34名の方々の慰霊碑		
10	青函トンネル記念館	展示館	青函トンネルのすべてをダイナミックに体験。ケーブルカー「もぐら号」で行く海面下140mの体験坑道。オリジナルグッズの売店も併設。体験坑道セットの入場料1300円	 <p>写真提供: アプティネット</p>	4月25日～11月10日
		グルメ	北の幸がテーマのレストラン「紫陽花」		

3. 外ヶ浜町・三厩エリアの観光資源(総合)

通番	観光資源名	分類	概要	写真・図	季節・備考
11	龍飛岬観光案内所「龍飛館」	展示館	太宰治、棟方志功ゆかりの旧・奥谷旅館が観光案内所にリニューアル。太宰治が友人と過ごした宴席の様子を再現しているほか、著名人の絵画、色紙等を展示している	 写真提供: 外ヶ浜町	4月25日～11月30日
12	太宰治文学碑	歴史文化	龍飛館近くの海辺にある	 写真提供: アプティネット	
13	龍飛崎 ・ 龍飛崎灯台	景観	青森県津軽半島最北端。津軽海峡に突き出た岬。津軽国定公園。三方を海に囲まれ、日本三大潮流が流れる。突端には龍飛崎灯台	 写真提供: アプティネット	
14	帯島	景観	龍飛崎の突端にあるのが「帯島」。島とはいっても道路でつながっていて、車でも行くことが可能。「帯島」という名称は、本州から北海道に渡るための龍馬を得た義経が、帯を締め直した所という伝説に由来する	 写真提供: 外ヶ浜町	
		歴史文化			
15	階段国道	景観	車両が通行できない階段の国道339号線。かつて県道であった頃から車両通行不能区間だったが、昭和49年に国道指定された。概要は全長388.2m、段数362段、標高差約70m	 写真提供: アプティネット	

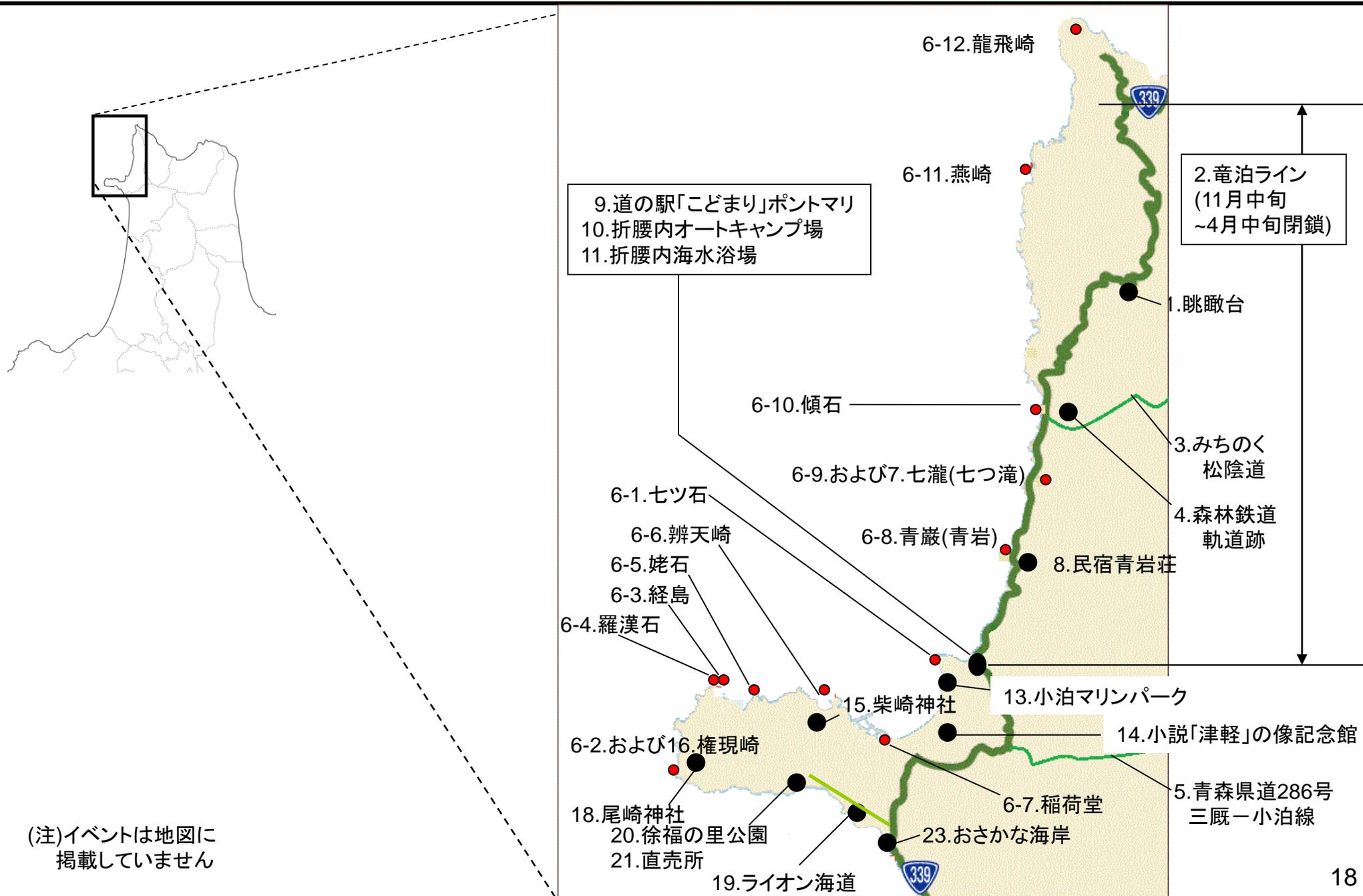
3. 外ヶ浜町・三厩エリアの観光資源(総合)

通番	観光資源名	分類	概要	写真・図	季節・備考
16	龍飛崎温泉ホテル竜飛	宿泊	50室200名まで宿泊可能。津軽海峡の眺望、晴れた日は北海道のやまなみも見えるホテル。レストラン「食事処 海峡」を併設	 写真提供: アプティネット	
		温泉	大浴場、露天風呂 泉質は硫酸塩泉(低張性弱アルカリ性温泉)で、適応症は動脈硬化症、きりきず、やけど、慢性皮膚病など		
17	碑の丘	歴史文化	川柳作家「川上三太郎」、思想家「吉田松陰」、海上保安庁初代長官「大久保燈青」、文人「佐藤佐太郎」、「大町桂月」、などがこの地を訪れた碑がある	 写真提供: 外ヶ浜町	
18	津軽海峡冬景色歌謡碑	歴史文化	楽曲「津軽海峡冬景色」で広く全国に知れ渡りようになった龍飛岬。その曲のヒットを記念するとともに、新しい観光の名所とすべく建立された碑	 写真提供: アプティネット	
19	龍飛崎シーサイドパーク	自然体験	裏龍飛(龍飛崎南側)にあるアウトドア拠点。釣り、海水浴、スキューバダイビング等に適している	 写真提供: 外ヶ浜町	4月25日～11月10日
		宿泊	ケビンハウス7棟、バンガロー4棟、テントサイト		
20	龍飛・義経マラソン	イベント	毎年お盆に開催されるマラソン大会。太宰コース(12km)、義経コース(5km)、弁慶コース(3km)中学生、静御前コース(3km)女性、牛若丸コース(2km)小学生、ひよどり越えコース(2km)フリー、の各コースがある	 写真提供: 外ヶ浜町	8月開催

3. 外ヶ浜町・三厩エリアの観光資源(総合)

通番	観光資源名	分類	概要	写真・図	季節・備考
21	竜泊ライン	景観	龍飛崎から小泊まで19.5kmの国道339号線。車で約40分。海の眺めだけでなく、新緑や紅葉も見事。峠の展望台「眺瞰台」からは龍飛崎や北海道、十三湖、岩木山までも見晴らせ、夕方が特に美しい	 写真提供: アプティネット	4月～11月(冬期間閉鎖) 外ヶ浜町と中泊町の共通資源
22	みちのく松陰道	歴史文化	吉田松陰が1852年に津軽海峡の国防状況を検分するため小泊から三厩まで山越えをしたとされる道。1978年に命名され、翌79年みちのく遊歩道として整備。1997年大規模な改修整備を実施	 写真: 青森地域社会研究所	外ヶ浜町と中泊町の共通資源(写真は三厩側入口)
		自然体験	全長10km、登山口間で3.3kmの山越え遊歩道。季節の山野草や自然景観も満喫できる		
23	青森県道286号 三厩-小泊線	景観	もともとは増泊林道線と呼ばれた林道。多数の滝があるなど、自然景観を堪能することができる。当路線は元々林道であり、路線全般で未舗装・悪路であるため 冬期間は閉鎖される		11月中旬～5月下旬通行止め 外ヶ浜町と中泊町の共通資源
		自然体験			

4. 中泊町・小泊エリアの観光資源(総合) 位置図



4. 中泊町・小泊エリアの観光資源(総合)

通番	観光資源名	分類	概要	写真・図	季節・備考
1	眺瞰台	景観	小泊－龍飛崎を結ぶ国道339号線通称「竜泊ライン」の最高地点にある展望台。北に北海道、南に岩木山といった360度のパノラマ景観が魅力	 写真: 青森地域社会研究所	4月～11月(冬期間閉鎖)
2	竜泊ライン	景観	龍飛崎から小泊まで19.5kmの国道339号線。車で約40分。小泊側は急カーブが連続し、海と山の眺めがめまぐるしく入れ替わる。夏には沖合いに漁火が浮かぶ	 写真提供: アプティネット	4月～11月(冬期間閉鎖) 外ヶ浜町と中泊町の共通資源
3	みちのく松陰道	歴史文化	吉田松陰が1852年に津軽海峡の国防状況を検分するため小泊から三厩まで山越えをしたとされる道。1978年に命名され、翌79年みちのく遊歩道として整備。1997年大規模な改修整備を実施	 写真: 青森地域社会研究所	外ヶ浜町と中泊町の共通資源(写真は小泊側入口)
		自然体験	全長10km、登山口間で3.3kmの山越え遊歩道。季節の山野草や自然景観も満喫できる		
4	森林鉄道軌道跡	歴史文化	みちのく松陰道に小泊側登山口から入るとほどなく、片刈沢の森林軌道跡が残っている。案内板があり、「昔は森林軌道で木材を運んだ。この軌道は、昭和42年頃まで使われていた」と書いてある。 ※昭和42年＝1967年	 写真: 青森地域社会研究所	
5	青森県道286号 三厩-小泊線	景観	もともとは増泊林道線と呼ばれた林道。多数の滝があるなど、自然景観を堪能することができる。当路線は元々林道であり、路線全般で未舗装・悪路であるため 冬期間は閉鎖される		11月中旬～5月下旬通行止め 外ヶ浜町と中泊町の共通資源
		自然体験			

4. 中泊町・小泊エリアの観光資源(総合)

通番	観光資源名	分類	概要	写真・図	季節・備考
6	小泊十二景	景観	<p>荒川秀山が小泊一帯を自分の足で歩き、この地域の風景に感動。12景を選定して七言絶句の漢詩を詠んだ</p> <p>ななつし、こんげんざき、きょうしま、らんせき、うばいし、べんてんざき、いなりどう 七ツ石、権現崎、経島、羅漢石、姥石、辨天崎、稻荷堂</p> <p>あおいわ ななつだき かたがりいし、つばくらざき、たつびざき 青巖(青岩)、七瀧(七つ滝)、傾石、燕崎、龍飛崎で12景</p>	 <p>写真提供: 中泊町</p>	写真は青巖(青岩)
7	七つ滝	景観	<p>小泊一龍飛崎を結ぶ国道339号線通称「竜泊ライン」にある高さ21mの滝。7段の岩肌を伝い流れることからこの名がついた。道路沿いにあるので車の窓からも眺められる</p>	 <p>写真提供: 中泊町</p>	
8	民宿青岩荘	宿泊	40名まで宿泊可能。竜泊ライン沿い、小泊十二景のひとつ青岩のすぐそばにある。夕陽が絶景	 <p>写真提供: 中泊町</p>	冬期間閉鎖
		グルメ	新鮮魚介類のおまかせ料理が人気。運が良ければ幻のエビと言われる「鬼エビ」が食べられる		
9	道の駅「こどもり」ポイントマリ	販売施設	中泊町・小泊地区の観光拠点。魚介類、水産加工物等の販売。折腰内オートキャンプ場、折腰内海水浴場に隣接。サザエキャッチャーがある	 <p>写真: 青森地域社会研究所</p>	4~11月
		グルメ	「レストラン竜泊」あり		
10	折腰内オートキャンプ場	自然体験	折腰内海水浴場へすぐ行ける。道の駅ポイントマリもあるので利便性高い	 <p>写真提供: 中泊町</p>	7~8月
		宿泊	オートキャンプサイト、フリーテントサイト多数あり。コインシャワー、コインランドリー、乾燥機、身障者用トイレ・シャワー室完備		

4. 中泊町・小泊エリアの観光資源(総合)

通番	観光資源名	分類	概要	写真・図	季節・備考
11	折腰内海水浴場	自然体験	天気の良い日は北海道の大島、小島が見える	 <p>写真提供: 中泊町</p>	7~8月
12	RABビーチサッカー青森県大会in小泊	イベント	青森放送が主催する中泊町折腰内ビーチで毎年開催され、熱戦が繰り上げられる	 <p>写真: 青森地域社会研究所</p>	7月、写真は開催前整地済みの会場
13	小泊マリンパーク	自然体験	夏には海水浴客でにぎわう海岸。夏祭りなどのさまざまなイベントも開催される	 <p>写真提供: 中泊町</p>	7~8月
14	小説「津軽」の像記念館	歴史文化 展示館	小説「津軽」の像が有名。太宰治の復元した声や、太宰の乳母「タケ」が思い出を語る映像、小説「津軽」にまつわる品々などを展示	 <p>写真提供: 中泊町</p>	
15	柴崎神社	寺社	柴崎城は、津軽の豪族安東盛季(もりすえ)が南部義政に攻められ、福島城、唐川城を捨て1443年に蝦夷地に撤退の際、最後に立ち寄った城とされている。現在は神社になっている	 <p>写真提供: 中泊町</p>	

4. 中泊町・小泊エリアの観光資源(総合)

通番	観光資源名	分類	概要	写真・図	季節・備考
16	権現崎	景観	中泊町西端で日本海に突き出た岬。小泊十二景の1つで緑色の岩壁が高層楼のようで海にかぶさるような景観。頂上から北海道、岩木山、十三湖のパノラマを楽しめる	 写真提供: アプティネット	
17	権現崎遊歩道	自然体験	四季を通じて変化する、厳しい日本海の寒風にさらされた木々に心を癒されながら歩く、全長約10kmの林間遊歩道で、コースの所々で津軽海峡・岩木山等を一望できる	 写真提供: 中泊町	頂上までは6.0km、約130分の行程
18	尾崎神社	歴史文化	権現崎の海拔229mの断崖絶壁頂上にあり、平安時代の建立といわれる。このころ修験者の聖地として山全体が権現としてあがめられ、飛龍大権現を祭神に、脇土に中国の徐福が、航海の神として祀られ飛龍宮と称した。明治初年の神仏分離で尾崎神社と改称	 写真提供: 中泊町	
		寺社			
19	ライオン海道	景観	橋げたには訪れる皆さんを出迎えてくれるライオン像がある。権現崎に沈む夕日は、四季によって色が微妙に変化する	 写真提供: アプティネット	
20	徐福の里公園	歴史文化	約2,200年前、秦の始皇帝の命を受け、中泊町の権現崎・下前に不老不死の薬草を求めて漂着したとされる徐福。徐福がたどり着いたという伝説は日本各地にあるが、小泊の徐福伝説は日本最北	 写真提供: 中泊町	

4. 中泊町・小泊エリアの観光資源(総合)

通番	観光資源名	分類	概要	写真・図	季節・備考
21	徐福の里物産品直売所	販売施設	中泊町の新鮮野菜や鮮魚を格安価格で販売	 <p>写真提供:青森県農林水産部総合販売戦略課</p>	
22	小泊漁協婦人部・塩辛づくり体験	グルメ	新鮮な地物のイカを解体し、「塩辛」や「のしイカ」づくりをする体験企画。10人以上で要予約。体験所要時間2時間。イカ塩辛体験の料金は1,000円	 <p>写真提供:アプティネット</p>	
23	おさかな海岸	グルメ	地元魚介類を気軽においしく食べられる飲食店	 <p>写真提供:青森県農林水産部総合販売戦略課</p>	

5. 食鮮・奥津軽のプレミアムグルメ

(1) 海鮮プレミアム素材

通番	品目	概要	写真	季節・備考
1	海峡マグロ (クロマグロ)	大間マグロと同じ津軽海峡のクロマグロ。三厩漁協に水揚げされたものが、「みんなや海峡マグロ」	 <p>写真提供: 株式会社 釣り東北社</p>	 <p>調理写真: アプティネット 9-12月が旬</p>
2	生ウニ(キタムラサキウニ・エゾバフンウニ)	寿司ダネや生ウニ丼で人気。添加物を加えない新鮮な殻付きウニは北の海の定番高級グルメ。写真はキタムラサキウニ	 <p>写真提供: アプティネット</p>	 <p>調理写真: 外ヶ浜町6-8 月が旬</p>
3	ヒラメ	ご存知青森県のさかな、誰もが知っている高級魚。刺身はもちろん洋食素材としても高い評判。特に冬の「寒鰯」が美味	 <p>写真提供: 株式会社 釣り東北社</p>	 <p>調理写真: アプティネット</p>
4	タイ	晩秋以降に津軽半島北部沿海で獲れるマダイは脂肪を蓄えながらも上品な味が身上。タイの間では小泊方面のチダイ(ハナサキダイ)も美味	 <p>写真提供: 株式会社 釣り東北社</p>	春 ~ 桜鯛 晩秋 ~ 紅葉鯛
5	ソイ(マゾイ・クロソイ)	非常に美味しくうまみの強い白身魚。調理法も刺身をはじめ和洋多彩。鮮度が落ちるのが比較的早く、産地で食べるに限る	 <p>写真提供: 株式会社 釣り東北社</p>	通年水揚げ(冬~春漁獲多い)、写真はクロソイ

5. 食鮮・奥津軽のプレミアムグルメ

(1) 海鮮プレミアム素材

通番	品目	概要	写真	季節・備考
6	アイナメ	地元では一般にアブラメと呼ばれる。新鮮なアイナメは、刺身・煮つけ・唐揚げ・天婦羅・焼き物と何の料理にも合う	 写真提供: (株)釣り東北社	通年水揚げ、産卵前(春～秋)が旬
7	ブリ (ワラサ)	いわゆる青物のブリは名前が変わる出世魚で、特に秋以降ワラサと呼ばれる脂ののったサイズに成長し、津軽半島北部の沿海に回遊してくる。	 写真提供: (株)釣り東北社	寒ブリ(冬)
8	イカ (スルメイカ・ヤリイカ)	刺身や寿司で生食に多用されるが、一夜干し、直火焼き、煮付けでも美味。津軽海峡、日本海の漁火は風物詩。夏はスルメイカ、冬はヤリイカ (写真はヤリイカ)	 写真提供: (株)釣り東北社	 調理写真: アプティネット
9	タコ (ミズダコ・マダコ)	刺身、タコシャブなどシャキシャキの歯ごたえと旨みが特徴。獲れたての大型ミズダコの釜茹ではエンターティメント性も高い (写真はマダコ)	 写真提供: (株)釣り東北社	1～4月が旬
10	サメ	当地では、サメと言えばまずアブラツノザメ。水揚げしてすぐ処理したものは刺身もOK。漬け焼きや煮付けが定番	 写真提供: 青森魚類(株)	

5. 食鮮・奥津軽のプレミアムグルメ

(1) 海鮮プレミアム素材

通番	品 目	概 要	写 真	季節・備考
11	カレイ	当地ではさまざまなカレイ類が獲れるが、特に冬場のミズクサガレイ(写真)は来なければ食べられない寿司ネタのひとつである	 写真提供: (株)釣り東北社	冬～春、ミズクサガレイは1月～2月
12	サヨリ	秋になると岸辺に回遊してくる。歯ごたえと爽やかな旨みが持ち味。刺身や寿司ダネ、てんぷら等に重宝される	 写真提供: (株)釣り東北社	秋～春
13	シロギス	半島周辺の砂地の浅場に良型のシロギスが生息している。脂肪が少ない白身魚で、塩焼き、刺身、てんぷらなどに好適	 写真提供: (株)釣り東北社	6月～9月が旬
14	トゲクリガニ	花見の時期に採れるので「花見ガニ」とも呼ばれる。カニみその濃厚さでは毛ガニに勝るといわれている	 写真提供: 青森県漁業協同組合連合会	4月～5月が旬
15	ガサエビ (シャコ)	トゲクリガニと並んで、青森県の観桜会に欠かせない素材	 写真提供: 青森魚類(株)	4月～6月が旬

5. 食鮮・奥津軽のプレミアムグルメ

(1) 海鮮プレミアム素材

通番	品目	概要	写真	季節・備考
16	ホタテ	三方を海に囲まれた津軽半島では、新鮮な「陸奥湾ホタテ」も様々な調理法で楽しめる	 <p>写真提供: 青森県漁業協同組合連合会</p>	6月～7月が旬
17	アワビ	ご存知、高級貝。岩に張りついてアラメ、ワカメ、コンブなどの褐藻類を食べ、北の磯の恵みが身に凝縮されている	 <p>写真提供: 青森県漁業協同組合連合会</p>	11月～12月が旬
18	サザエ	浅海の岩礁域に生息する巻貝、荒波にもまれているため、表面の管状突起が大きい。つぼ焼き、刺身、酢の物など	 <p>写真提供: 青森県漁業協同組合連合会</p>	夏
19	ホヤ	ご存じ、海のパイナップル。津軽の新鮮なマボヤの味は臭みがなく非常に美味である。山菜のミズと色合い、味覚ともに相性が良い	 <p>写真提供: アプティネット</p>	7月～8月が最高
20	イシモズク	津軽海峡のイシモズクは色が黒く表面にぬめりがあり、歯ごたえが強いのが特徴		夏

5. 食鮮・奥津軽のプレミアムグルメ

(1) 海鮮プレミアム素材

通番	品 目	概 要	写 真	季節・備考
21	オニカサゴ	比較的深場に生息しており、成長が遅い魚。背鰭や胸鰭の棘に毒をもつため、扱いには注意を要するが、食味は絶品で釣りの対象魚として人気が高い	 写真提供:STO孤溪 氏	晩秋～冬
22	オキメバル (ウスメバル)	青森でメバルと言えばオキメバル。テンカラと呼ばれている。高値安定の高級魚。刺身にできるような大型のものはあまり出回らない。煮付けが美味	 写真提供:(株)釣り東北社	通年で水揚げあるが 春～初夏
23	オニエビ	体中棘だらけで幻のエビと呼ばれる。日本海側200m以上の深海に生息。一般のスーパー等に出回ることはまずない。味の濃厚さが格別	 写真:青森地域社会研究所	
24	マゴチ	ヒラメと同様、砂地にいる。初夏の白身魚としては、スズキ以上の高級魚。アライがおいしいとされる	 写真提供:(株)釣り東北社	初夏～秋
25	タコノコ (蛸の子)	たこの卵巣。藤の花に似ていることから海藤花(かいとうげ)とも呼ばれる。生はもちろん、煮たり、蒸したりする	 写真提供:(社)青森観光コンベンション協会	冬

5. 食鮮・奥津軽のプレミアムグルメ

(1) 海鮮プレミアム素材

通番	品 目	概 要	写 真	季節・備考
26	ドンコ (エゾイソアイナメ)	ウミナマズとも呼ばれるグロテスクな姿。身が柔らかく崩れやすいが、冬場は 脂が乗り肝も肥大化して美味である	 <p>写真提供: 青森魚類</p>	旬は11月～2月
27	ゴッコ (ホテイウオ)	ぶよぶよと丸みのある外観でぬめりがある。腹側に大きな吸盤を持つ。ゴッコ汁は知る人ぞ知る味だがまだ一般的でない		12月～4月、産卵で浅場に来る
28	ネズミゴチ	見た目が悪く表面にはぬめりがあるなど、評判は芳しくない。しかし捌くと素晴らしいてんぷら素材となる		夏
29	ギンポ	磯周りに生息するニョロツと長い魚。おろし難さと小骨の処理が難点だが、もともと江戸前てんぷらでは高級ネタとされていた	 <p>写真提供: 青森魚類(株)</p>	秋～春、5月に限るとの説も
30	ウマヅラハギ	通称はチュッチュ。透明度の高いフグにも似た白身と肝が美味。見た目で損をしているが、新鮮なものは高級魚としての扱いを受ける	 <p>写真提供: (株)釣り東北社</p>	秋～冬

5. 食鮮・奥津軽のプレミアムグルメ

(1) 海鮮プレミアム素材

通番	品目	概要	写真	季節・備考
31	ツバイ	バイ貝の仲間。アワビやサザエのような主役級の貝ではないが、地元 に定着した食材。寿司店、小料理店の通しなどに用いられる		漁期：夏

5. 食鮮・奥津軽のプレミアムグルメ

(2) その他の山海プレミアムおよび加工品 ①水産加工品

通番	品目	概要	写真	季節・備考
1	サメの飯寿司	飯寿司とは、塩で締めた魚をご飯と重ね漬けたなれ寿司。一般にはサケ、ニシン、ハタハタ、ホッケなどがよく使われる。三厩地域ではタラの網にかかったサメを飯寿司にして正月料理にする。サメ肉の甘みとサメ皮のコラーゲンのプリプリ感などが特徴		
2	ホヤの塩辛	生食とは違った滋味。海辺の食堂などで食べられるほか、漁師の奥さんの手作り品などがお土産としても販売されている		
3	エメラルドモズク	イシモズクの新鮮な若い藻をパックし、瞬間冷凍した「エメラルドモズク」は、今別漁港の海産物直売所「もじょく」の人気アイテム		
4	ウニの瓶詰め	津軽海峡の荒波に育まれた豊満なウニの塩蔵品。あまりきつくない塩味でコクのある旨さが特徴		
			写真提供: 今別町	
5	コンブ・ワカメ類	良質なコンブ、ワカメを生産。主に塩干加工品として販売。若いこんぶを間引きしたものが若生コンブ		
			写真提供: アプティネット	
6	焼き干し	新鮮なアジやイワシを全て手作業で、天日干し・炭火焼にこだわり、貴重な焼干しに加工している外ヶ浜町名産品		
			写真提供: 外ヶ浜町	

5. 食鮮・奥津軽のプレミアムグルメ

(2) その他の山海プレミアムおよび加工品 ②山菜・山菜加工品

通番	品 目	概 要	写 真	季節・備考
1	姫竹（ネマガリタケ）	正式な和名はチシマザサ。一般的には根曲がり竹（ネマガリタケ）と呼ばれる。その上品さと美しさで「姫竹」とも呼ばれる。しょうゆベースの煮物や味噌汁にすると美味	 写真提供：青森県農林水産部総合販売戦略課	5月～6月が旬
2	ミズ（ウワバミソウ）	クセがない味で、みずみずしい歯ごたえとぬめりが特徴の山菜。表皮をむき、ゆでておひたし、あえもの、油炒め、汁の具などにする	 写真提供：外ヶ浜町	6月～8月が旬
3	フキ	フキの原産地は日本で、北海道から九州まで全国の山野に自生しているが、当地の初夏の山菜としてはネマガリタケとならぶポピュラーな食材。独特の香りを楽しむ煮物、和え物、炒め物が定番の調理法		6月が旬
4	きのこ類	津軽山地がひろがっており、秋にはさまざまなきのこ類が収穫される。さもだし（ナラタケ）、ハタケシメジ、ナメコ、ムキタケ、ブナシメジ、イクジなど		9月～11月、種類により異なる
5	ミズの一本漬け	秋口まで収穫できる太いミズを切らずに一本ごと漬ける津軽地方ならではの漬物がある。地元加工グループが丹精を込めて漬けて入っている		
6	山菜の缶詰・瓶詰め	地元で採れた新鮮なネマガリタケやフキの皮をむきそのままパックした逸品。新鮮な山菜の香りを手間いらずでいつでも楽しめるのでお土産に好適	 写真提供：中泊町	 写真提供：今別町

5. 食鮮・奥津軽のプレミアムグルメ

(2) その他の山海プレミアムおよび加工品 ③畜肉

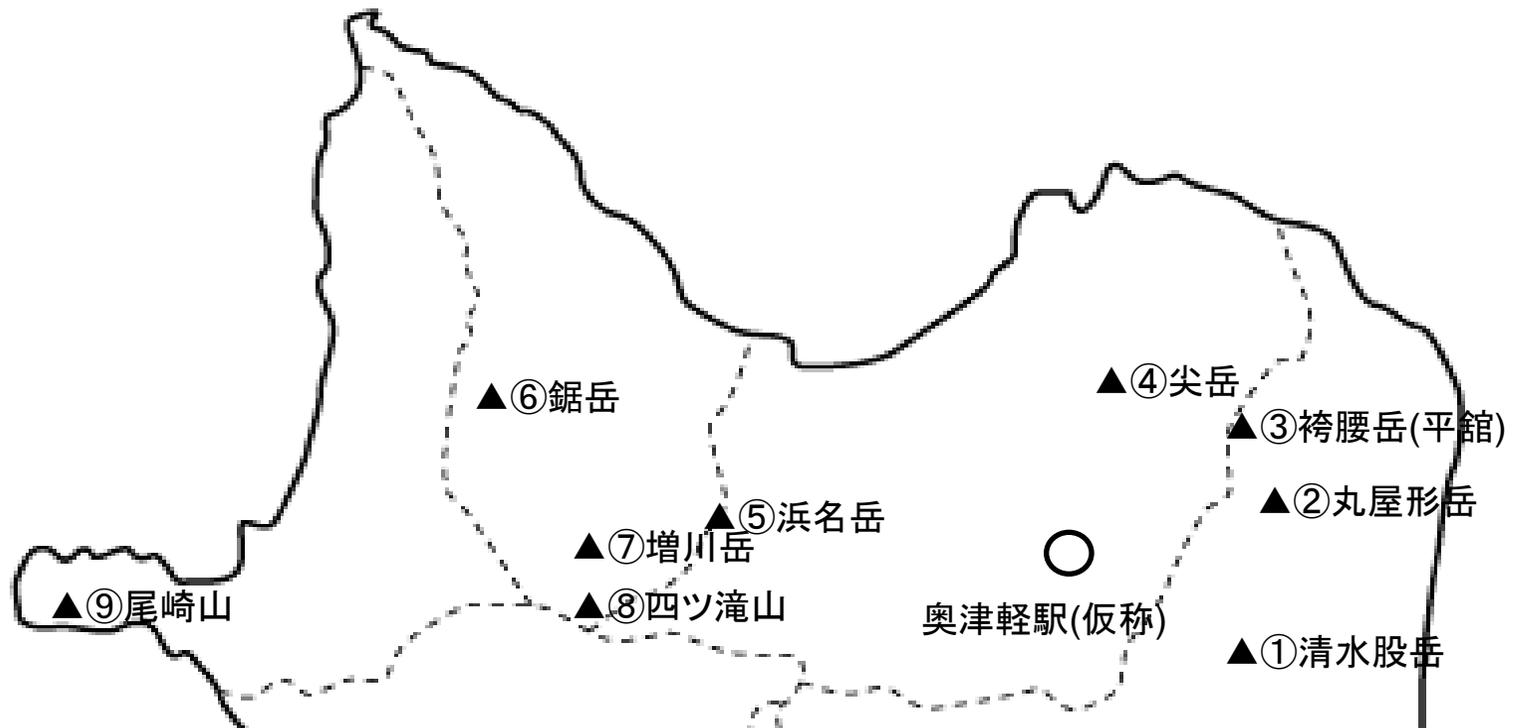
通番	品 目	概 要	写 真	季節・備考
1	いのしし肉	脂の旨味はしっかりあるのに、食感はあっさりとしている。焼肉やぼたん鍋にするとおいしい	 写真提供:今別町	奥津軽いのしし牧場

5. 食鮮・奥津軽のプレミアムグルメ

(2) その他の山海プレミアムおよび加工品 ④その他加工品(名産品)

通番	品 目	概 要	写 真	季節・備考
1	若生おにぎり	若い昆布にごはんを包んだおにぎりが当地の定番。義経海浜公園の「かぶと」などで提供。噛むほどに磯の香りが広がる	 <p>写真提供: 外ヶ浜町</p>	若生昆布の旬は3月～4月
2	紫麺(しーめん)	古代米「紫黒米」と県産米「まっしぐら」の粉末を練り込んだラベンダー色の麺。中華系、サラダ等に適	 <p>写真提供: 今別町</p>	
3	もずくうどん	今別産の高級イシモズクを練りこんだうどん。香りとツルツル感が人気。ミネラル、カルシウムを多く含み健康にもよい	 <p>写真提供: 今別町</p>	
4	ブルーベリー・ブルーベリー製品	中泊町特産品。生鮮品、ジュース、ジャムなどラインアップ充実。お土産に好適	 <p>写真提供: 中泊町</p>	

6. 津軽半島北部地域の山 ＜位置図＞



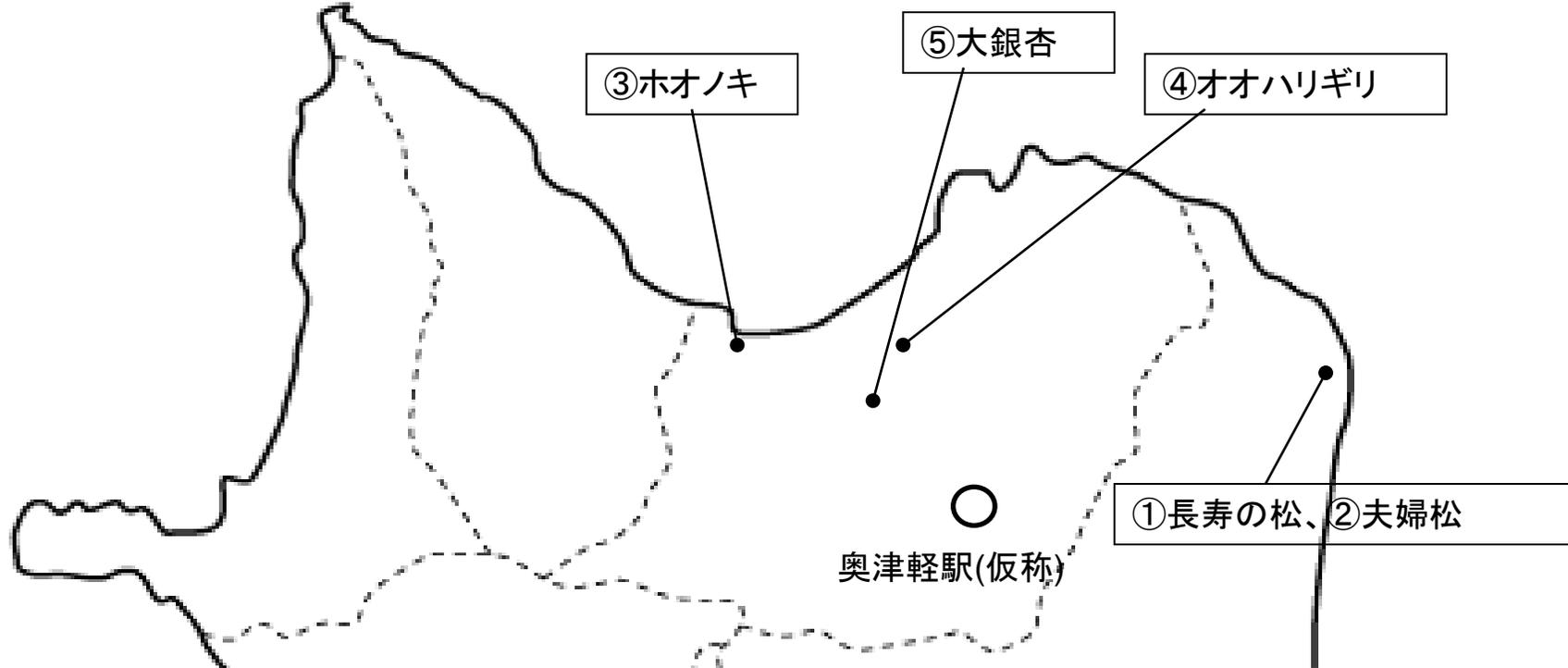
注)③袴腰岳は中泊町中里にも同名の山がある。こちらも360度の展望で有名
青森地域社会研究所作成

6. 津軽半島北部地域の山

通番	名称	標高	概要	歩行時間、距離	所在
1	しみずただけ 清水股岳	566.2m	陸奥湾を望む製鉄の歴史が残る山	1:40 3.0km	地図①
2	まるやがただけ 丸屋形岳	718.0m	津軽半島最高峰	1:10 1.4km	地図②
3	はかまごしだけ 袴腰岳(平館)	708m	平館海峡に面した人気の山。ロングコース	4:55 5.6km	地図③
4	とんがりだけ 尖岳	529.1m	三厩湾に望む展望の山頂	1:05 1.0km	地図④
5	はまなだけ 浜名岳	603.2m	津軽海峡と陸奥湾を展望	1:50 3.1km	地図⑤
6	のこだけ 鋸岳	582m	青森県を代表するヒバ実験林の山	1:55 4.1km	地図⑥
7	ますかわだけ 増川岳	713.7m	ヒバ林が美しい津軽半島の名峰	4:15 5.9km	地図⑦
8	よつたきやま 四ツ滝山	669.6m	ブナ林の自然が残る津軽半島の静かな山	1:10 3.5km	地図⑧
9	おざきやま 尾崎山	229.7m	津軽半島東端、日本海に突き出た展望台	2:35 4.1km	地図⑨

山と溪谷社 新・分県登山ガイド[改訂版]1 『青森県の山』(2010年6月5日)ほかを参考に作成

7. 津軽半島北部地域の巨樹・古木 ＜位置図＞



青森地域社会研究所作成

7. 津軽半島北部地域の巨樹・古木

通番	名称	所在	概要	写真	備考
1	外ヶ浜の「長寿の松」	地図①	外ヶ浜町平館の旧松前街道松並木のうちの一本。お台場オートビレッジから海岸へ出る道路沿いにある。黒松の巨木としては全国的にも有数。外ヶ浜町天然記念物		樹齢推定600年 幹周り633cm
2	外ヶ浜の「夫婦松」	地図②	長寿の松から20メートルほど離れたところに黒松と赤松の古木が寄り添うように生育している。外ヶ浜町天然記念物		
3	今別の「ホオノキ」	地図③	ホオノキは山中ではありふれた木だが、人里の神社に巨木として生育しているのは珍しい。ナラタケの寄生で損傷が著しい。今別町天然記念物		幹周り約5m
4	鍋田の「オオハリギリ」	地図④	今別町鍋田地区で稲荷神社の敷地に全国2位に該当する幹回りを誇るハリギリ(センノキ)がある。さながら集落を見渡すご神木。		樹齢推定500年 幹周り645cm
5	大川平の「大銀杏」	地図⑤	田の中にただ一本の大銀杏が孤立している。戦国時代の大開城主の庭木であるとの伝説がある。今別町天然記念物		樹齢約400～500年

東奥日報社 青森県の巨樹・古木を訪ねて (2010年5月30日)ほかを参考に作成

写真: 1～4青森地域社会研究所、5は今別町提供

参考資料等一覧

青森県観光国際戦略局HP「青森県観光情報アプティネット」	http://www.aptinet.jp/	観光全般、グルメ関係
青森県農林水産部HP「あおもりのうまいものたち」	http://www.umai-aomori.jp/	グルメ関係
青森県東青地域県民局HP	http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/hi-renkei/	観光全般、グルメ関係
青森県西北地域県民局HP	http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/se-renkei/	観光全般、グルメ関係
今別町HP	http://www.town.imabetsu.lg.jp/	観光全般、グルメ関係
外ヶ浜町HP	http://www.town.sotogahama.lg.jp/	観光全般、グルメ関係
中泊町HP	http://www.town.nakadomari.lg.jp/	観光全般、グルメ関係
(社)青森観光コンベンション協会HP「七子八珍」	http://www.atca.info/nanako/	グルメ関係
青森県漁業協同組合連合会HP「あおもりのおさかな」	http://www.amgyoren.or.jp/fish/	グルメ関係
青森魚類(株)HP「トピックス」	http://www.aogyorui.co.jp/	グルメ関係
(株)釣り東北社HP	http://www.tsuru-tohoku.com/	グルメ関係
小泊港「J-つりバカ号」船長STO孤溪(須藤英策)氏HP	http://www.actv.ne.jp/~cokei/	グルメ関係
新・分県登山ガイド[改訂版]1 『青森県の山』	書籍 山と溪谷社(2010年6月5日)	山
『青森県の巨樹・古木を訪ねて』	書籍 東奥日報社(2010年5月30日)	巨樹・古木

調査地域の観光資源のピックアップや実地調査にあたっては、県当局や関係自治体をはじめ、多くの関係者から様々なアドバイスをいただきました。

また、本資料の取りまとめにあたっては、関係団体のご担当者の皆様、および釣り愛好家の個人の方々からのヒアリング内容等が大変参考になりました。

本資料の記述に関し、主に参考にさせていただいた資料は上記の書籍およびHP情報です。

これらに実地調査の確認内容や関係者ヒアリング等の情報を交えながら編集いたしました。

また、説明用の写真の掲載につきましても、たくさんの団体、個人から快く掲載のご承諾をいただきました。ご協力くださったすべての方々に厚く御礼を申し上げます。

津軽半島における地域活性化に関する調査研究

奥津軽駅(仮称)周辺の自然体験型メニュー

2012年2月

財団法人 東北活性化研究センター

はじめに	3
1. ポタリング・徒歩散策のコース設定	4
2. 森林浴、登山、健康マネジメントプログラムの組成	5
3. 3つの海を楽しむ拠点・シーサイドキャンプ場の活用	6
4. フィッシング・パラダイス奥津軽	7
5. その他マリン・ツーリズム	8

本編に示したとおり、当地の自然については、想定されるターゲットとの兼ね合いから、メインコンセプトには組み込まなかった。

しかしながら、当地の自然はサブコンテンツとして「ゆったり体感、カスタムメイドの奥津軽ロマン」に一部有効に組み合わせられる可能性がある。

また、今回とは別のコンセプト(例:「奥津軽の自然満喫!」)で、県内客を中心とした近隣の幅広い層をターゲットに展開することも考えられる。その場合は、極力お金をかけずに既存の資源を有効に活用していくことが大切である。

こうした観点から、奥津軽駅(仮称)周辺の自然体験型メニューについて、別紙としてとりまとめたものである。

1. ポタリング・徒歩散策のコース設定

(現状)

- ・海岸線沿いに続く漁村風景、津軽海峡のランドスケープ、日本海側の景観(竜泊ライン、夕日)など、東北の原風景を堪能できるポイントが豊富に存在する。
- ・これらの観光資源を楽しむには散策が適しているが、ポイントは広域に散在している。



小泊十二景(左:青岩、右:七つ滝)
写真:青森地域社会研究所

(活用方法)

①テーマに沿った旅に彩りを添える活用

・コンセプトで示した「奥津軽ロマン(歴史・文化)」のテーマでの周遊の際に、レンタカー等を利用しながら広域観光の中で楽しむ

②オプションルツアーとして展開する

例1:限定的な地域でのポタリングの主目的として楽しむ

例2:樹木医等のガイドによる「巨木・古木観察会」のような切り口



巨木・古木
左:今別町鍋田の大ハリギリ、
右:外ヶ浜町平館長寿の松
写真:青森地域社会研究所

2. 森林浴、登山、健康マネジメントプログラムの組成

(現状)

- ・津軽山地は日本海側の中山山地と陸奥湾側の平館山地の二本の平行する隆起帯からなり、標高200m～700mクラスの比較的登りやすい山々が数多くある。
- ・ブナや津軽ヒバの原生林も豊かで、さまざまな楽しみ方ができる。

(活用方法)

①ハイキング・森林浴・登山

- ・個々の装備、経験、体力等に応じ、ハイキング感覚の森林浴から本格登山までいくつかのメニューを提示することが望ましい。
- ・山自体が手軽さと手付かず感を備えているので、ガイド付きの登山に植生の観察や山菜採取などの付加価値を加えれば、素晴らしい体験型観光資源となる。

②健康プログラム

- ・最近注目されている気候性地形療法※に温泉や滞在をセットした保養プログラムも開発できる。

※ 気候性地形療法

普段の生活とは違う気候要素、例えば冷気、風、日射などを、森林や傾斜地、水辺空間など、自然の地形を活用しながら、専門的な指導に基づき、複合的な刺激として身体へ作用させる療法。林に寝転んで外気浴をしたり、樹木に抱きついたり、景色を眺めながらストレッチをするなどの要素を入れながら、無理のない野外ウォーキングをする例などがある。

熊野古道・湯布院温泉・山形かみのやま温泉で「日本型温泉クアオルト」として先進的に活用されている。

ちなみに、クアオルトとは地域資源を活用した健康保養地のこと。



みちのく松陰道(算用師峠)
登山道標識

写真:青森地域社会研究所

気候性地形療法のワンシーン

当地ではないが、青森県八甲田山麓で行われた事例

写真:青森地域社会研究所



地元産のふきと姫竹(ネマガリタケ)
当地の山は山菜の宝庫である

写真提供:今別町

3. 3つの海を楽しむ拠点・シーサイドキャンプ場の活用

(現状)

・当該エリアは日本海、津軽海峡、陸奥湾の3つの海に面している。

・それぞれの海を望める場所に、設備の充実した海辺のキャンプ場が多数存在する。

(活用方法)

・優れた景観、整った設備、きれいな海を活かし、夏季のシーサイドキャンプ需要のかさ上げと、春秋あるいは冬の活用方法を検討する必要がある。

(補足)

・今別町の「眺海の森林ウッドパーク」は海にも近いが、唯一の森林サイトで奥津軽駅(仮称)から非常に近い立地である。奥津軽観光の滞在拠点としての利用が可能であり、おおいに活用すべきである。



お台場オートビレッジ
(陸奥湾、津軽海峡を臨む)
写真提供: 青森県観光情報
アプリネット



竜飛シーサイドパーク
(津軽海峡、日本海を臨む)
写真提供: 青森県観光情報
アプリネット



眺海の森林ウッドパーク 写真提供: 今別町



折腰内海岸
左奥がオートキャンプ場
(日本海を臨む)
写真: 青森地域社会研究所

4. フィッシング・パラダイス奥津軽

(現状)

・日本海、津軽海峡、陸奥湾の海釣りと半島各地の溪流釣りは強力な観光資源である。釣りはレジャー人口が多く、当該エリアの魚種が豊富で魚影も濃いため、今後も有望な分野である。

・当該地域のフィッシング需要は現状でも好調だが、地域全体を潤す観光コンテンツにはなっていない。

(活用方法)

・「防波堤の小魚から海峡マグロ釣りまで」など、キャッチフレーズを明確にし、よりオープンで誰もが利用しやすい観光資源として育てていくことが重要である。

・船釣りでは、馴染み客の遊漁船チャーターに代表されるクローズド・スタイルだけでなく、インターネット予約等ができるオープンな乗り合い船方式を充実することにより、観光コンテンツとしてより魅力的なものになる。

・釣り具や救命具等装備品のレンタル、コーチ付を前提とし、初心者が手ぶらで、しかも短時間で体験できるシステムをつくり、観光コンテンツとしての間口を広げる。

(参考) 下北半島で行われている「イカ釣り体験」等

・釣りを観光コンテンツとしてこれまで以上に活用していくためには、漁場の資源管理への配慮も一段と重要になる。



上:マダイ、左:ワラサ(ブリ)
写真提供:小泊港 釣りバカ号船長
STO孤溪 氏

5. その他マリン・ツーリズム

漁業資源を活かした地引網体験、磯遊び、北のスキューバダイビング、水産加工体験などが考えられる。



高野崎 (磯遊びのポイントは津軽半島のいたるところにある)
写真提供: 青森県観光情報アプリネット



中泊町小泊 いか塩辛づくり体験(右は完成品)
写真提供: 青森県観光情報アプリネット



津軽半島における地域活性化に関する調査研究

検討の方法論について

2012年2月

財団法人 東北活性化研究センター

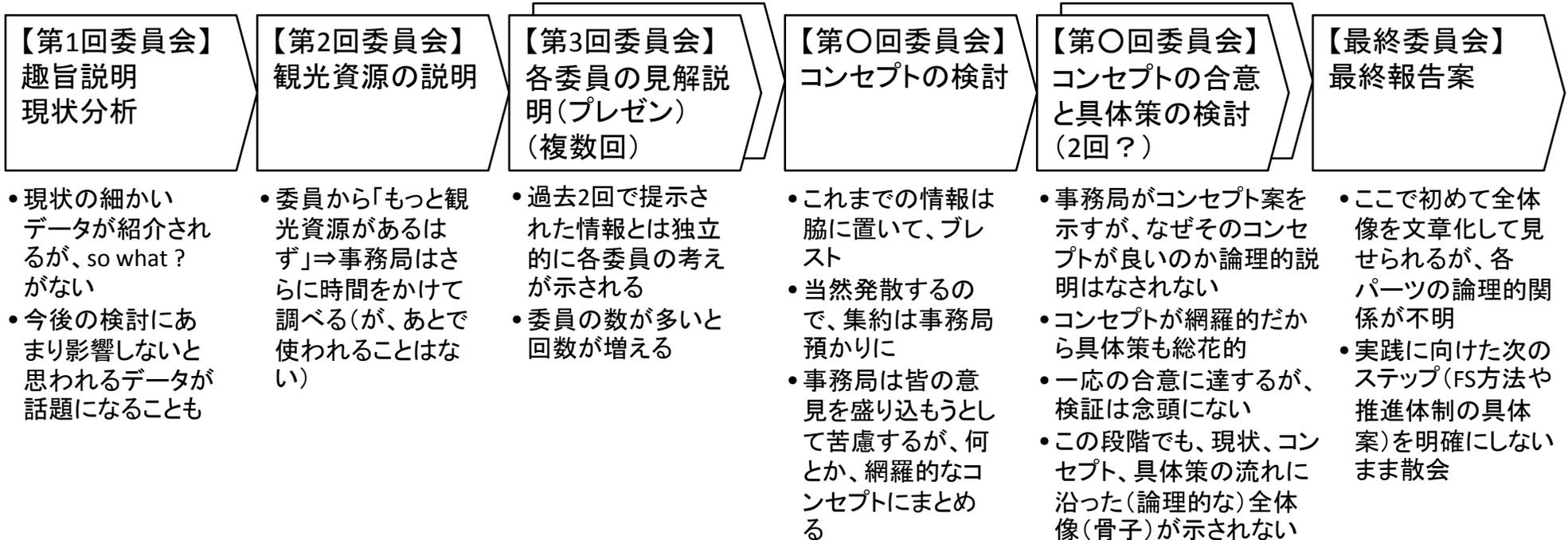
検討の方法論について

1. 時に見かける悪しき検討のパターン

この方法論が多くのケースにフィットするとは限りません。
また、今回の解よりも良い解があります。

(文責 東北活性研 調査研究部長 宮曾根 隆)

「委員会の回数が多く長時間費やしている割には議論が進化せず、検証もないまま、最後の最後で初めて総花的な結論が成文化される。」というような検討が時に見られます。下の例はデフォルメしていますが、これに近いことはけっこうあるのではないのでしょうか。このようにならないためには、経営コンサルティング会社の方法論（仮説思考、論理構造の明確化など）が参考になります。（高度なものではありません。次ページ以降参照）



2. 望ましいと思われる検討のパターン（今回の実際の流れをもとに）

下記は今回の実際の検討経緯を良い方にデフォルメしたものです。早い段階から検討の全体像を仮説として示し、それを検証修正する形で進めます。結論とその根拠も当初から明確にします。また、検討結果（調査結果）は、その都度1テーマ1枚方式で（この報告書のような形式で）成文化します。したがって、どの時点でも、一定の成果物（抜けはあるが、ある程度全体像がわかるもの）を関係者に提示できます。

【第1回委員会】

青森県の識者インタビューと
現地調査、および
委員会でのブレストにより
初期仮説設定（合意）

【第2回委員会】

東京でのグループインタビュー
と識者インタビュー、および函館
での関係者インタビューにより
仮説修正（絞込み）

【第3回委員会】

絞った仮説と考案したモデルルートを素材にしたWEBアンケートにより
仮説を検証し、具体検討のヒントを得る
最終報告案提示／今後の進め方も議論

- 初回から現状分析とそこから導かれる、コンセプト、ターゲット、コンテンツの仮説（首都圏等に加え近隣もターゲットに、歴史ロマン、アドベンチャー体験、ご当地グルメを売りに）を提示
- 初期仮説設定においてはマーケティングで使われる3C/STPのフレームワーク（後述）を渾然一体の形で応用
- ターゲットについては今回の場合、新幹線新駅の利用客が所与であった
- 観光統計等は今回の検討では重要でないので議論の対象としなかった（人口動態はデータがあったので資料には載せたが）
- 初期仮説にあった「近隣客」と「アドベンチャー体験」を削除し、コンセプト、ターゲット、コンテンツを純化
- 他のコンセプト等は東京、函館のインタビューにより検証がなされた形となった
- この段階で想定される報告書の全体像が委員の中でほぼ共有
- WEBアンケートはターゲットとコンテンツの仮説を絞っていたのでコストミニマムで実施
- 歴史資源が評価されること、函館と連携することが重要であることなどが、検証された
- また、ターゲットの中でより重視すべき年齢層や歴史資源の人気順もわかり、今後の細部設計に大いに参考となった

3. 参考にした方法論のまとめ

今回参考にしたことは「仮説思考」「フレームワークの活用」「論理構造の明確化」です。どれも高度なことではありません。誰でもある程度自然にやっていることです。しかし、意識的、明示的にやると頭の中が整理され、関係者の認識共有がなされ、効率的に検討が進みます。なお、こういった検討の仕方は参考書を読めばできるというものではありません。経験者のアドバイスを受けることが望ましいと思います。

仮説思考

仮説思考とは検討の早い段階で現状認識、問題、解の方向性などの全体像を仮の結論として持つことです。その仮説を検証、修正しながら、より効果的、現実的な総花的でない結論に導きます。自然に枝葉より幹の議論が中心になり、会議内容が発散しなくなります。

【参考書】内田 和成『仮説思考』2006年 東洋経済

(著者はボストン・コンサルティング・グループの元日本代表)

【留意点】 次のようなことが時々起こります。

- ・初期仮説をくつがえしそうな情報が出てきたのに初期仮説にしがみつく
- ・都合のよい情報だけ(初期仮説を支持する情報だけ)知らず知らずに集めてしまう

論理構造の明確化

結論と根拠を明確にすることです。当然のことですが、きちんと表現することは意外に難しいと言われます。

最近多くなってきた論理的思考の解説書のいくつかでは、結論を根拠で支えるピラミッド構造で表現する方法が載っています。

【参考書】後 正武『論理思考と発想の技術』2006年 PHP文庫

(著者はマッキンゼー & Coを経て、ベイン & Coの元日本支社長)

フレームワークの活用

フレームワークとはものごとを整理するときの切り口や戦略立案の定番の手順のことです。

今回は、経営環境分析で使われる3C (4C) = Customer 顧客/市場 Competitor 競合 Company 自社 (Channel 流通/販売網) およびマーケティングで使われる STP = Segmentation市場細分化 Targeting ターゲット設定 Positioningポジショニング(自社の差別化要因)の2つを意識しました。ただし、顧客が事実上所与であるなど比較的単純な案件であったので、これらすべてを同時に考えてコンセプトとターゲットの仮説を作りました。

仮説思考と同様、多くの人は自然にこれらの要素を使って考えていますが、意識して整理すると第三者に説明しやすく、議論もしやすいという利点があります。

観光による活性化の検討の場合は、一般的に

「自地域の特徴」「近隣競合の特徴」「全体的な観光トレンド」から「誰に(ターゲティング)」「何を(ポジショニング)」

という順番のフレームワークがよいと思います。

(セグメンテーションの軸は場所、年齢、性別、所得くらいでしょう)

【留意点】 次のようなことが時々起こります。

- ・既存のフレームワークに無理にあてはめようとする
その結果、単純なことを逆に複雑にしてしまう